

広島・木原家住宅の調査記録(その2 各部構法の詳細図)

古川 修文

The Survey Record of the Kihara House, Hiroshima Prefecture:
Part 2 Sectional Detail Drawing of Building Construction

Nobuhisa FURUKAWA

本稿は民俗建築アーカイブ㉕)で報告した「木原家住宅の調査記録」(『民俗建築』第161号)の後編である。昭和25年に文化財保護法が制定されて、各地に残る民家も文化財として保存する志向が急速に広がった。しかし戦後の復興期で新しいものへの関心が強まっているとき、民家の保存に目を向けるのは難しい時代であった。その状況の中で広島県の民家の保存にいち早く取り組んだのは、昭和25年に広島大学に赴任した佐藤重夫である。

広島県の民家では旧木原家住宅が最も早く国の重要文化財に指定されたが、その取り掛かりはアーカイブ㉕)で述べたように、昭和27年5月に佐藤が実施した木原家住宅第1回調査に始まる。続いて昭和27年7月に第2回調査をし、その結果を日本建築学会中国支部に発表した。さらに論文に斧鉄を加えて昭和29年『日本建築学会研究報告』19号に発表し、文化財として保存することを訴えた。昭和34年7月15日、広島大学佐藤研究室と広島県関係当局において保存を目的とした調査が行われ、その結果広島県指定建造物として指定されたのは大きな前進と言える。これにはマスコミも関心を持ち、昭和34年11月18日にNHKのテレビで佐藤が解説者として木原家住宅を案内する番組が放映され、徐々に県民の耳目を集めていった。このころ佐藤の目標は木原家住宅を国指定の重要文化財にすることであったが、10年以上も空き家として管理が不十分であった主屋は、各所の破損や腐朽が激しい状態であった。これ以上の破

損を食い止めるためと、現状を記録にとどめるために、木原家の理解と協力を得て昭和36年12月16日より佐藤研究室による詳細実測調査を開始した。小屋にも上ることが許され、天井板や床板、壁板がはがれた状態はむしろ内部の様子を詳細に実測するうえで助かる点もあった。学生の活躍で昭和39年秋に調査の図面をすべて完成させることができた。これらの地道な調査が功をなして、木原家住宅は昭和41年(1966)6月11日国指定重要文化財となった。これによって翌年の昭和42年12月、旧文化財保護委員会による保存修理工事が開始された。ただし当時の旧文化財保護委員会は後世に増改築した部分は取り除いて復元することが目的であったから、佐藤研究室の現状調査記録とは観点が異なっていた。佐藤研究室の調査は昭和30年代の現状を正確に図面に残し、当時の生活と密着した建物の関係を記録するものであった。同工事は昭和43年12月に終了し、木原家住宅は白壁の美しい建築に蘇った。昭和43年12月、高屋町は『重要文化財木原家住宅修理工事報告書』を刊行し、平成20(2008)年3月31日に(第2版)が東広島市教育委員会で編集・発行された。多くのカラー写真とモノクロ写真など、修理前と解体中の構造が記録されていて貴重である。竣工後の平面図。立面図・断面図も詳細の寸法入りで、学術的な価値がある。一方で佐藤研究室の残した図面は平・立・断の図面は勿論であるが、修理報告書に載っていない図面がたくさんある。本稿はそれらの図面の一部を紹

介するものである。

佐藤重夫が木原家住宅を初めて調査した昭和24年当時は、北から下がってくる表道路の坂道に面して木原家の居宅があり、南隣には友安医院があった。居宅の裏は建物がなく広い敷地が残されていた。戦前まで造り酒屋をしていた頃は敷地いっぱいに土蔵や酒蔵などが建ち並んでいたが、戦時に酒造業をやめてほとんどの建物は取り壊され、主屋とその北にある土蔵、南にある座敷、座敷の東側にある酒倉が残されているだけだった。昭和36年12月に佐藤は木原家の敷地内部を復元する作業に取り組んだ。木

原家に残っていた家屋台帳の写しを入手し、それとともに聞き取り調査を進め、図1を作成した。西の道路に面して友安医院のあったところはかつて御成門を構え、貴賓を迎えて座敷に通す格式の高いところであった。主屋の裏は土蔵や酒蔵がコの字に並び中の広場で酒の出荷や材料の搬入作業が行われ、東の裏門から運ばれていた。敷地には石垣と犬の土手を巡らし、武家の出にふさわしい防備の構えであった。現在の敷地は図1でみると居宅とその裏の土手で囲まれた部分(現在は空き地)だけである。

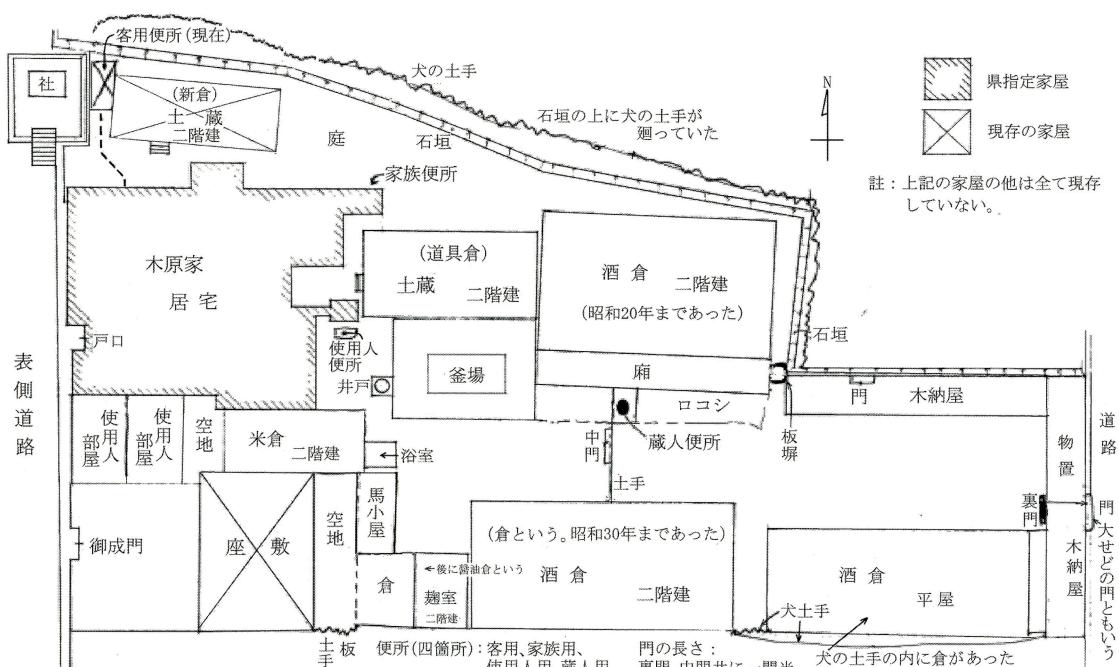


図1 戦前の木原家敷地配置図(S 36.12.16の聞き取り調査から作成)

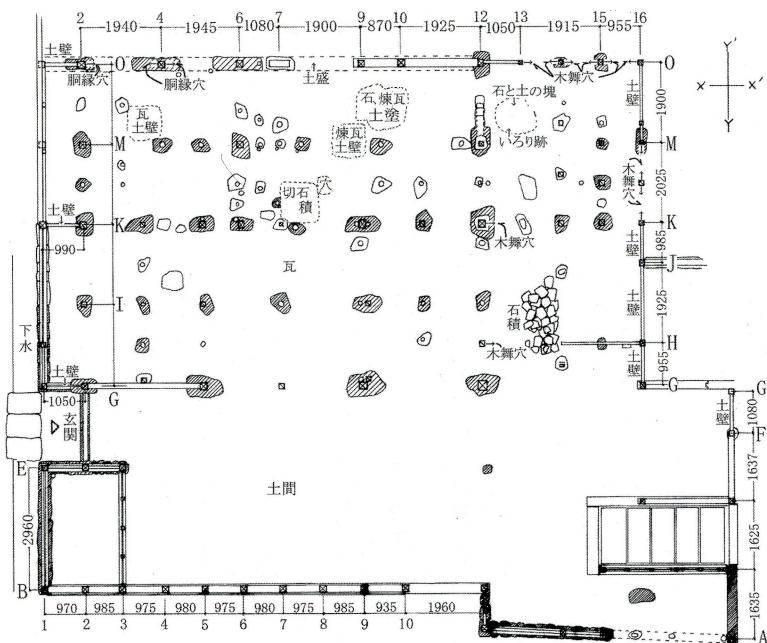


図2 基礎伏図(昭和36年からの実測調査による記録)

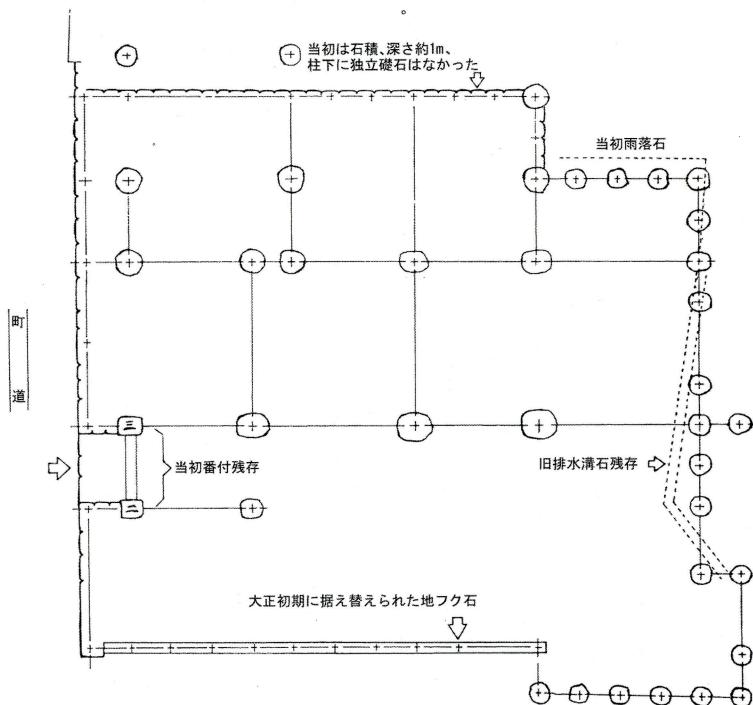


図3 復元工事による基礎伏図(重要文化財木原家住宅修理工事報告書より作成)

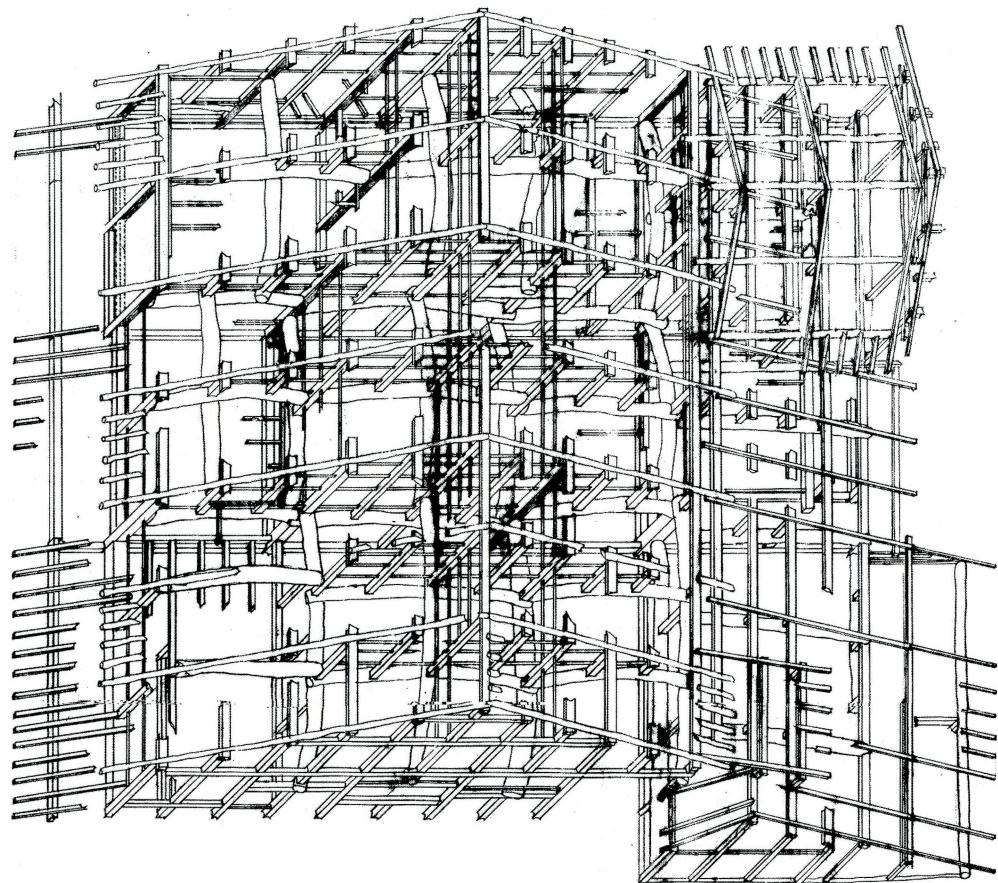


図4 構造図(梁より上)

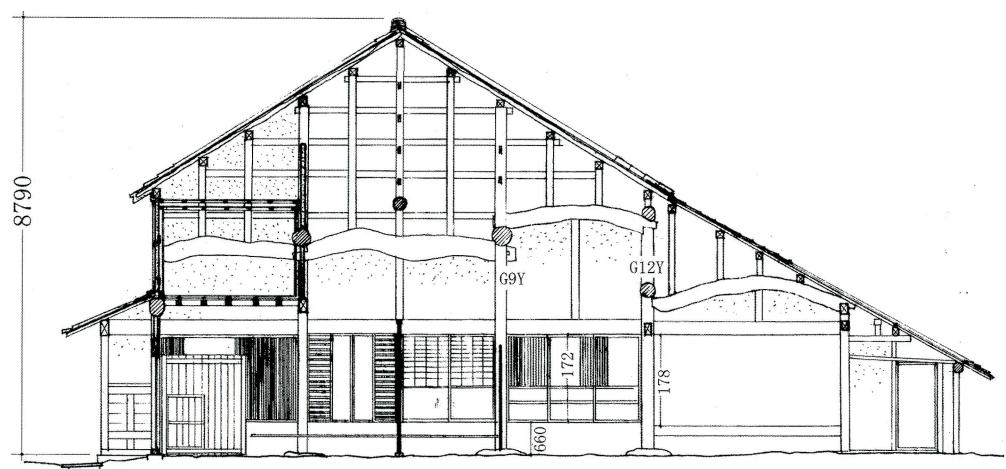


図5 G-Y(土間境)断面図

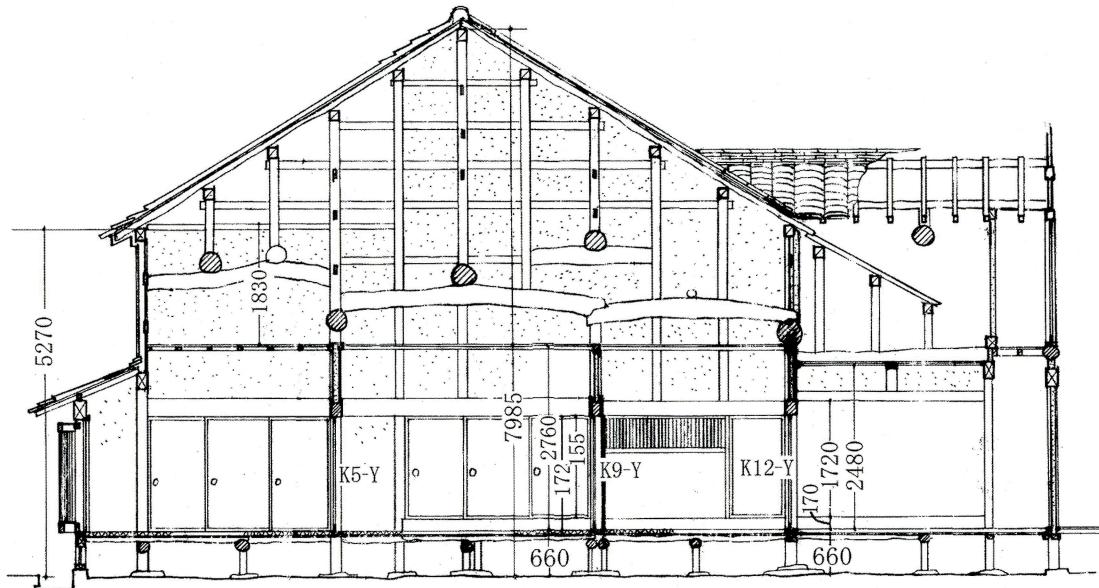


図6 K-Y断面図

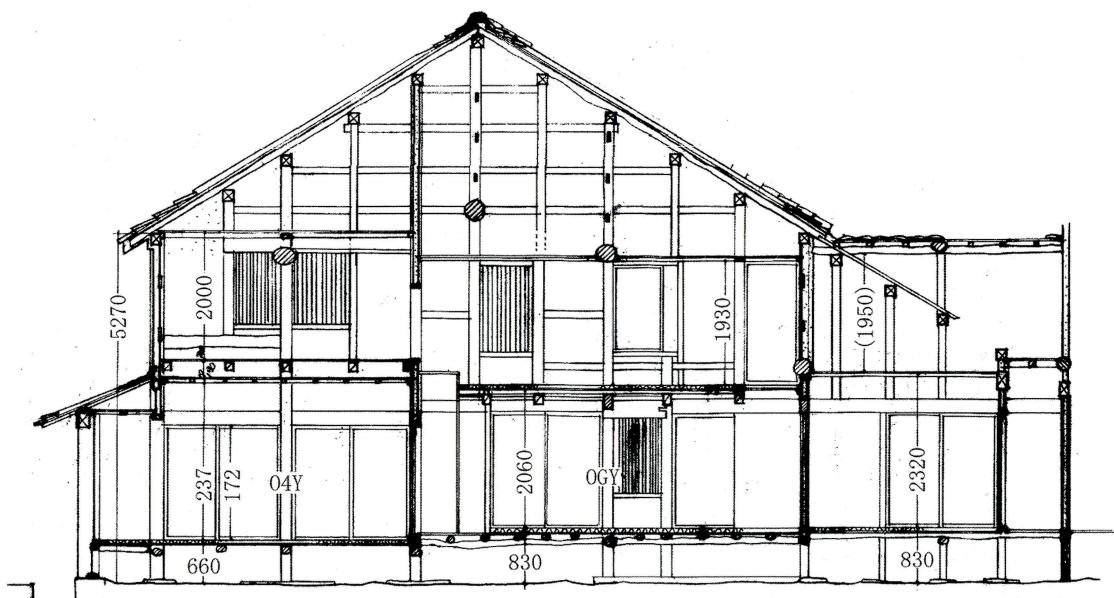


図7 O-Y断面図

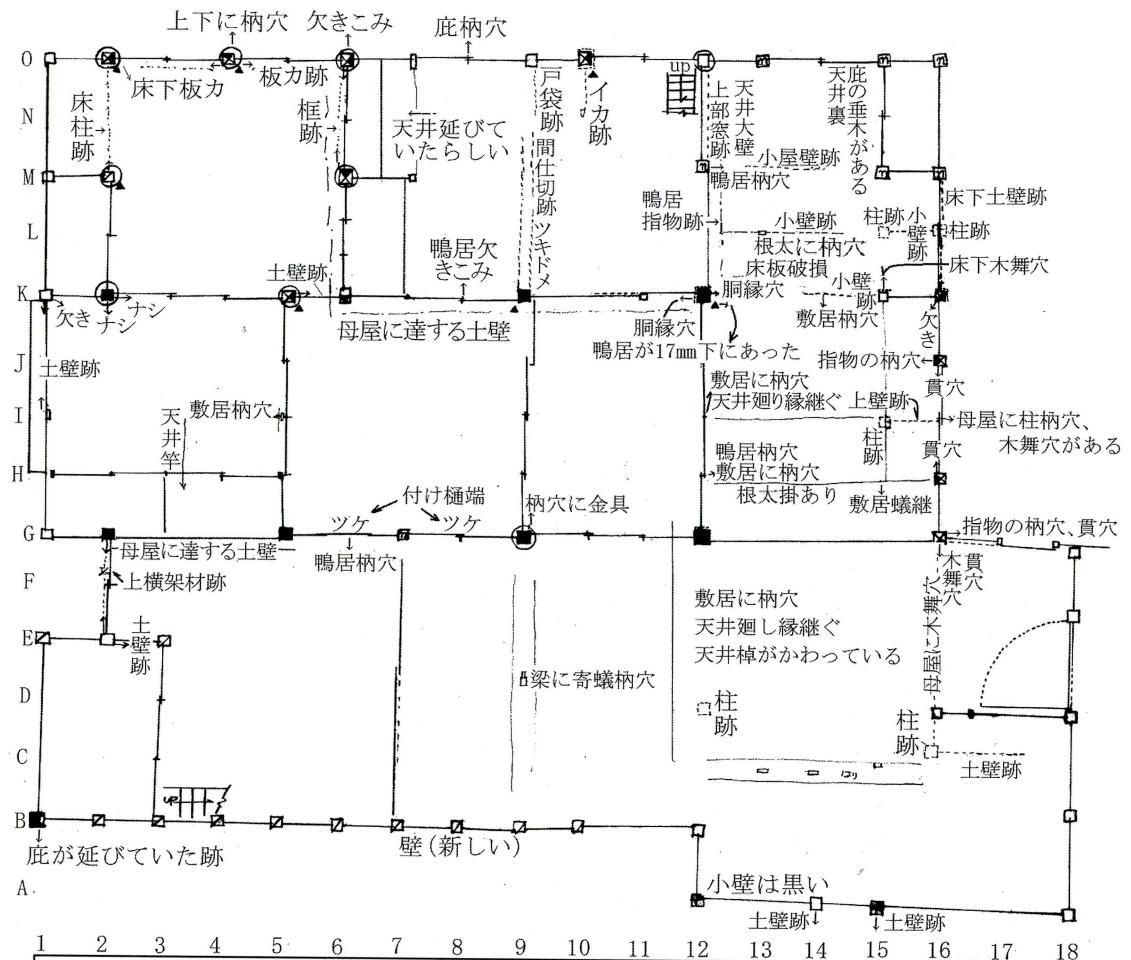


図8 全体柱痕跡図

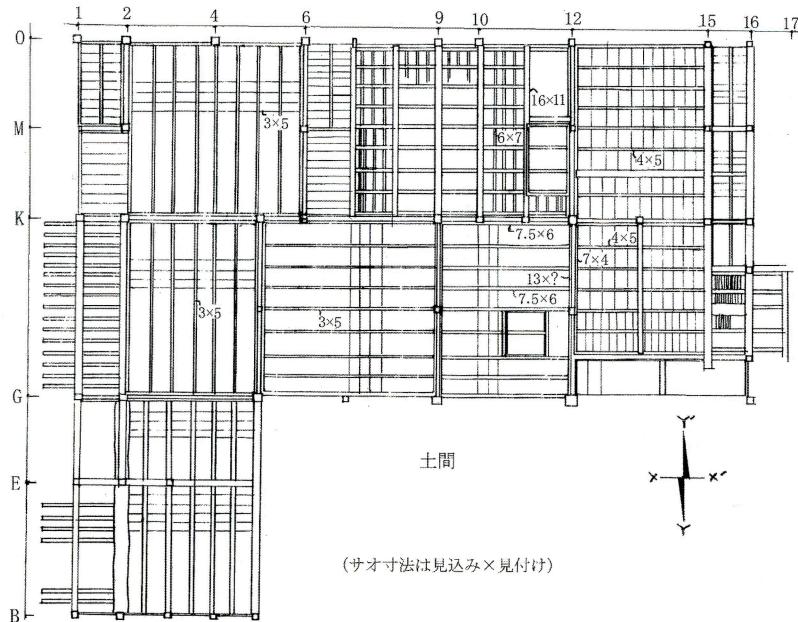


図9 天井伏図

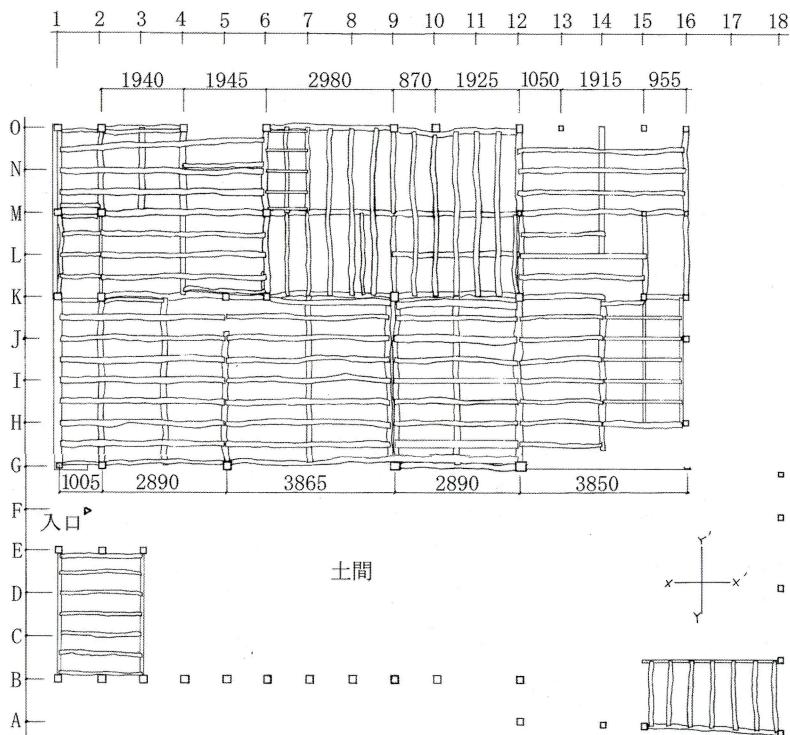


図10 床伏図

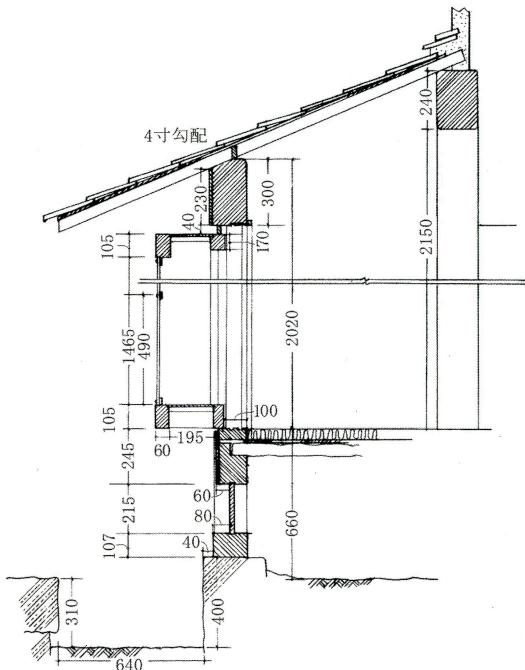


図11 道路側出窓部詳細図

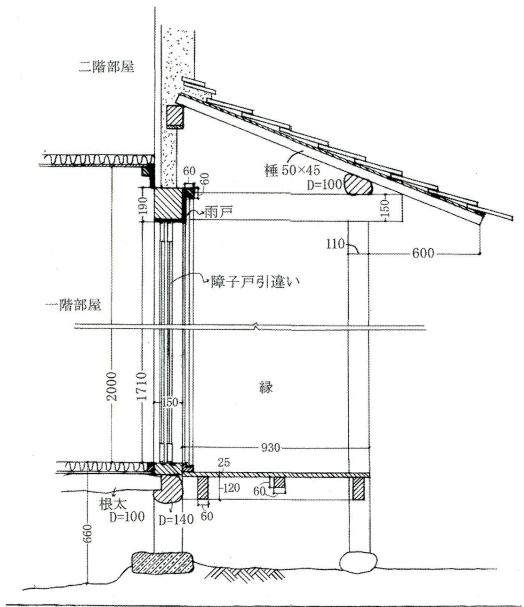


図12 縁側部断面詳細図

民俗建築アーカイブの写真・図版をご希望の方は
下記へ申し込んでください。無料で提供します。

日本民俗建築学会アーカイブ委員会
メール: 代表 金澤雄記
y.kanazawa.u4@cc.it-hiroshima.ac.jp